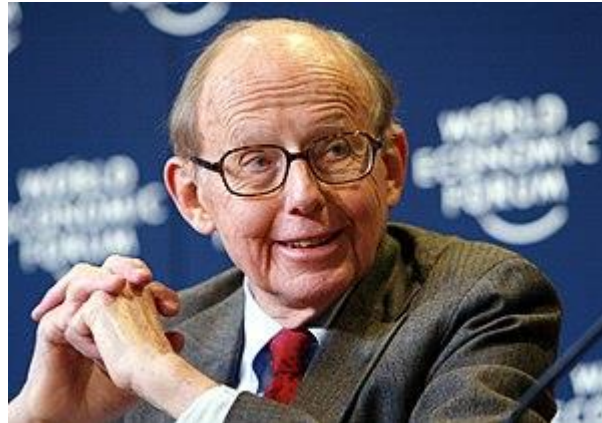


## 防衛について

米国の政治学者、サミュエル・ハンチントンは嘗て「文明の衝突」を著した。その中で彼は世界を8つの文明に分類し、紛争は文明の断層線=フォルト・ラインに沿って起きると警鐘を鳴らした。彼の主張には手厳しい批判もあり、疑問視もされた。しかし世界は彼の予言した方向に突き進んでいる。



サミュエル・ハンチントン

紛争の内容も富の掠取、エネルギーや鉱物等の地下資源の掠取の為から、現代は抑圧された国家・民族・宗教・思想から解放された瞬間、パンドラの箱から飛び出したような動乱の紛争時代に陥っている。今日では国家を越えた諸現象や国家間では対処しきれぬと思われる諸問題が増えている。昨今のテロ事件を見ても、単なる対話や誠意・常識など全く通用しない無法世界が存在する現実の世界を見せつけられた。厄介な事に無法世界の種は、思想や宗教の伝播・拡散に在り、それは世界各国に内在している事にある。即ち紛争の原因が人間の精神性に移って行きつつある事は問題解決を更に複雑にしている。では問題解決は国家では無理かということ、そうではないと思う。これらの野望を崩壊させる力があるのは、やはり国家である。これらの醜悪な野望を中止させ、自国をも防衛し、世界の秩序と安定の根幹を保障できるのは主権国家間の関係に在り、国連でも、国際機関でもNGO(非政府機関)でもない。

世界でも稀な秩序社会に住む日本人の多くは戦後国家や軍を「悪」と見る平和主義の傾向が強いし、左派リベラリズムの人達も国家や軍を屢(しばしば)戦争装置とか人権侵害要素とみるが、国家や軍は思ったより秩序安定・人権擁護者でもある。それは、国家には強制力を伴う法という武器を有するからだ。最悪の場合、法によって規制も擁護もできるからだ。

国家の強制力が無ければ「法」も無力であるように、軍による軍事力も戦争の具であると同時に屢(しばしば)戦争や紛争を「抑止」し、交渉で問題を解決する為の「後ろ

盾」となる事を我々は肝に銘じる必要があるだろう。それ故、主権を有する国家をアジア諸国が得る為に日本は大東亜戦争を戦ったし、アジアも血を流して迄戦い独立を果たしたのである。それ程主権を持つ国家というものは、民族の為には必要なものである。現在の世界は悲しいかな現実の危機に対しての解決策は「力」でしか無い事である。

「ISIL」や「中国」・「ロシア」・「北朝鮮」に対し、現代の世界は自国の「力」の過大ではなく、むしろ「力の過小」に苦しんでいるという現実を私達は悟らねばならない。日本もこれらの世界状況を分析しつつ、**国防に意識を集中**する時代になった。防衛とは国民の生命と財産を守り、平和と安全の任務を全うすることである。



ISIL (Islamic State in Iraq and the Levant)

現在の日本の防衛は憲法で決定された陸・海・空軍、その他の戦力はそれを保持しない、又日本の運命は平和を愛する諸国民、即ち他民族によって握られている（**日本国憲法前文：公正と信義に信頼して我らの安全と生存を保持しようと決意した**）。これでは現在の世界情勢から見ても国民の生命・財産・安全を守れない事は歴然としている。9条があっても、平和憲法があっても、日本人の安全は守れなかった。結論は明らかである。

憲法を改正し、自国は他国から守ってもらうのではなく、自国民の力によって守る決意と努力しかあるまい。もう偽善はこの辺で止めるべきだ。国を防衛し、戦争をしない為の方法や心構えを説き、国を守り平和を守る事の辛さや覚悟も国民一人一人が学び、本当の敵を知り、日本を取巻く危機的状況を直視し、何をすべきか真剣に考え行動すべきだ。国内で言論や言葉の刃を向ける対象を間違えているマスコミや空想的平和主義者はその愚を一刻も早く悟るべきだ。今日本の戦うべき相手は

- \* 宗教の名を騙る過激主義
- \* ロシアの拡張主義
- \* 中国の地域覇権主義
- \* 北朝鮮の拉致と韓国・中国の歴史戦
- \* 国内の反日組織

以上であらうか。

軍事力で直接攻撃意図があるのは、今のところ中国と I S I L である。特に中国に対しては抑止力を高めるしかない。I S I L に対しては日本国内の監視と危険地域に近寄らぬ事しかない。問題なのは日本の国防政策を妨害し、憲法改正の壁となる反日組織である。中には日本の革命の為にはテロ組織と手を組む事もいとわないと明言した共産党の池内沙織のような誇大妄想の輩や、朝日新聞等の常軌を逸した偏向報道によって洗脳される人達を目を覚ます運動を広めて行く事であり、憲法を改正し、この素晴らしい日本を創る為の学びの場を広めて行く事にある。つい最近のテレビで弁護士や高学歴の人達の、日本の歴史を知らない人の多いのに驚いた。歴史観が無ければ正しい国家観など生じないであらうに！！

日本人は余りにも軽すぎないか？？顔が日本を向いていない自称文化人が多い。常に韓国・北朝鮮・中国に向いている。自分達は反省と謝罪の心を持っている良識派、人道主義者としての証を外国から得たい人達であり、偽国際人として生きようとしているのか、自分だけが免罪符を得て偽人道主義者として卑屈な人生を生きようとしているのか、己が全く見えていない人達が多すぎないか？歴史を正しく学び、日本の本質的な良さを評価する心を放棄している人達が、憲法改正の障害となっている。正しい憲法改正こそ、日本の真の防衛とも言えよう。無知蒙昧、獅子身中の虫等の内なる敵からの防衛こそ防衛の最大の要かも知れない！！

平成 27 年 2 月 12 日

志雲会塾長 有馬正能